

黒田精工株式会社

(証券コード： 7726)

2026年3月期決算並びに 新中期経営計画説明会

2026年6月16日

1. 会社概要、事業内容
2. 2026年3月期 連結決算概要
3. 中期経営計画 Vision2030

1. 会社概要、事業説明

社 名	黒田精工株式会社
代 表 者	代表取締役社長 黒田浩史
本 社	神奈川県川崎市幸区
創 業	1925年
上場市場	東京証券取引所 スタンダード市場
資 本 金	1,952百万円
従業員数	982名 (連結、パート・嘱託含む)
主要事業	駆動システム事業 金型システム事業 機工・計測システム事業

沿革 ～ 100年を超える精密の歴史と信頼 ～

創業期	1925	日本最初の專業ゲージメーカーとして創業
	1935	ブロックゲージの製造販売を開始
技術基盤 の確立	1946	精密プレス金型 製造販売開始
	1953	平面研削盤 製造販売開始
	1961	東京証券取引所に上場
	1962	ボールねじ 製造販売開始
技術開発 と新事業	1978	型内積層金型「FASTEC」 製造販売開始
	1987	超精密鏡面加工機スーパーポリッシャー 製造販売開始
	1991	超精密表面形状測定装置ナノメトロ 製造販売開始
	1992	金型内自動接着積層システム「LASER FASTEC」 開発
	2005	車載 HEV 用モータコア 量産開始
	2006	平面研削盤「次世代職人GS-45シリーズ」 販売開始
	2008	金型内自動接着積層システム「Glue FASTEC®」 開発
	2008	かずさアカデミア工場竣工
事業再編 Global化	2012	JENA TECグループを買収
	2014	伊 Euro Group と業務提携、米テネシー州に合併会社
	2016	Glue FASTEC®コア 量産車車載用モータへの採用
	2019	かずさアカデミア工場新棟竣工 自動化ライン整備
	2022	中国 無錫隆盛新能源科技有限公司と業務提携
	2023	合併会社紅忠黒田ラミネーション(株)を設立
次の 100年へ	2025	100周年 記念式典開催
	2026	Vision2030発表

精密加工

精密測定

3つの事業の複合力で産業の高度化をサポート

駆動システム事業



研削ボールねじ
転造ボールねじ
BSアクチュエーター
サポートユニット



かずさアカデミア工場



旭工場

金型システム事業



精密積層プレス金型 (FASTEC)
Glue / LASER FASTEC®システム
ロータ磁石樹脂固着システム (MAGPREX®)
モーターコア (車載用／家電用)



長野工場

機工・計測システム事業



工作機械 (平面研削盤、ポリッシングマシン)
要素機器 (ゲージ、ハイドロリックツール)
精密測定システム
ソリューション提案



富津工場

Jenaer Gewindetechnik
GmbH (独)



無錫隆盛新能源科技有限公司
(中) <提携先>



韓国黒田精工株式会社 (韓)



紅忠黒田ラミネーション(株)
(日本) <合併会社>



Eurotranciatura USA LLC (米) <合併会社>



Euro MISI Laminations
(中) <提携先>



本社 (日本)



(株)ゲーシング (日本)



EUROGROUP S.P.A.
(伊) <提携先>



黒田精工(浙江)有限公司(中)



KURODA Precision
Industries(M)
SDN BHD (マレーシア)

KURODA JENA TEC Inc.
(米)



Eurotranciatura Mexico SA de CV
(メキシコ) <提携先>

【国内販売ネットワーク】

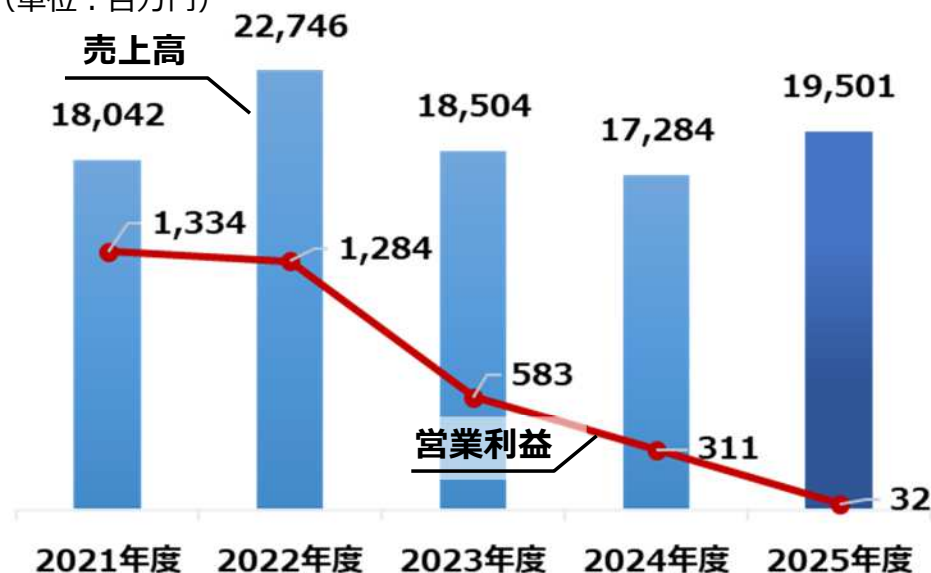
本社営業部
名古屋支店、大阪支店、京都営業所、
太田営業所、西東京営業所、長野営業所

2. 2026年3月期 連結決算概要

2025年度 連結決算概要

(単位：百万円)	前年同期 (2025年3月期)	業績予想 (25年11月13日付)	2025年度 (2026年3月期)	増減 (前年同期比)	増減 (予想比)
受注高	18,239	-	20,749	+2,510	-
売上高	17,284	18,800	19,501	+2,217	+701
営業利益	311	180	32	△278	△148
経常利益	419	40	11	△408	△29
親会社株主に帰属する 当期純利益	172	130	△96	△269	△226

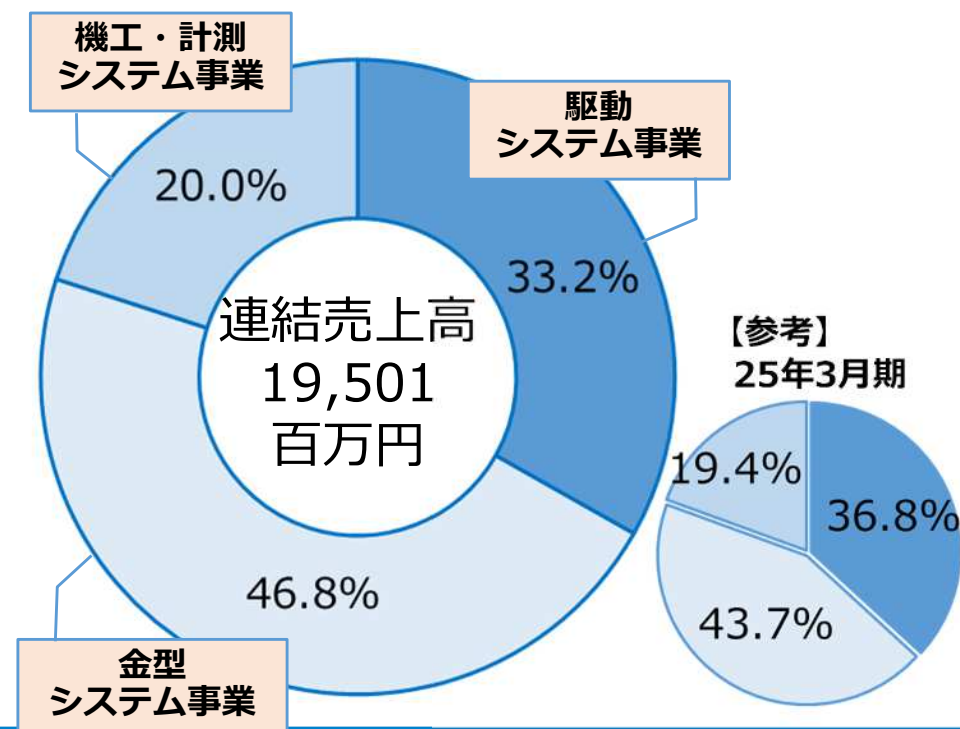
(単位：百万円)



- ◆ 受注高は、世界的EVシフトの減速の影響を受けた一方で、金型システム事業における新プロジェクト関連設備に加え、昨年末以来駆動システム事業の受注が急回復したことにより対前年増加となった。
- ◆ 売上高については、中国のレアアース（希土類）磁石の輸出規制によりモーターコアの生産への影響があったものの、金型システム事業における新プロジェクト関連設備及び工作機械部門の売上が増加したこと等により対前年増収。
- ◆ 品種構成差による利益率悪化や減価償却費の増大に加え、ドイツ子会社の赤字が拡大したことで減益。加えてドイツの構造改革費用等の特損を計上したことで純利益は赤字となった。

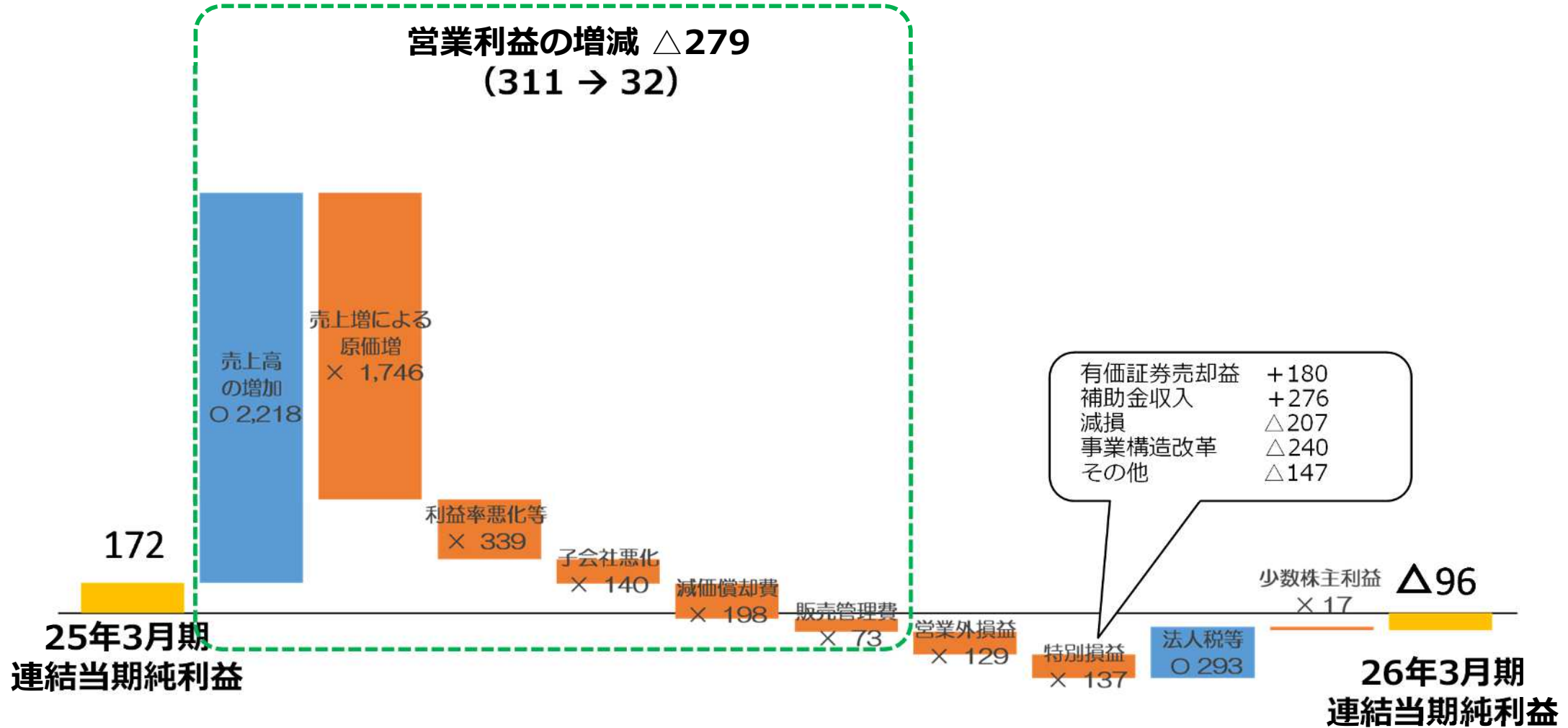
(単位：百万円)	受注高 (前年同期比増減)	売上高 (前年同期比増減)	営業損益 (前年同期比増減)
駆動システム事業	7,765 (+1,425)	6,480 (+108)	△186 (△61)
金型システム事業	8,855 (+396)	9,139 (+1,572)	49 (△530)
機工・計測システム事業	4,152 (+695)	3,905 (+543)	176 (+279)

- ◆ 駆動：半導体製造装置市場向け等の受注が昨年末以来急回復したことにより受注高は対前年大幅増。売上高・損益面では単体が増収・増益となったものの、欧米子会社の減収・減益の影響で、売上は前年並み、赤字が拡大。
- ◆ 金型：世界的なEVシフト減速の影響を受けたものの、新プロジェクト関連設備等の受注により受注高は対前年増。売上は、中国のレアアース磁石の輸出規制により販売が減少した一方で、前述の設備販売により増収。損益は、利益率の高い商品が減り、利益率の低い設備売上が増えた影響に加え、減価償却費等固定費の増加で大幅減益となった。
- ◆ 機工・計測：受注高は精機商品の大口受注等により増加。売上高も工作機械を中心にシステム部門の売上が増加。損益面では、増収効果とシステム部門の利益率の改善等により黒字に転換した。



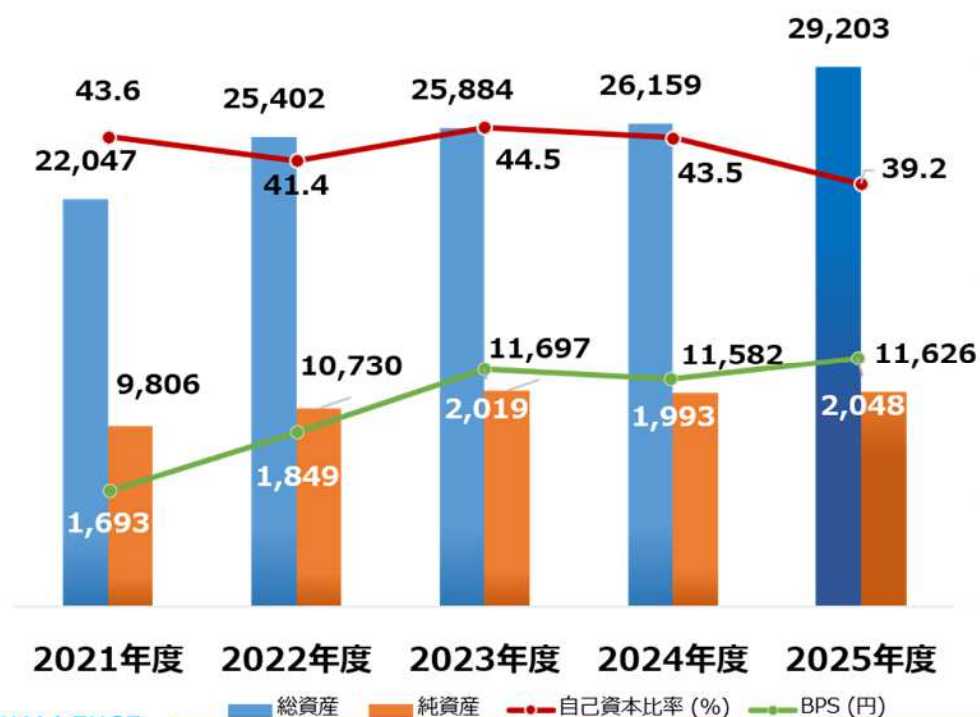
前年同期比 連結当期純利益の変動要因

(単位: 百万円)



連結貸借対照表

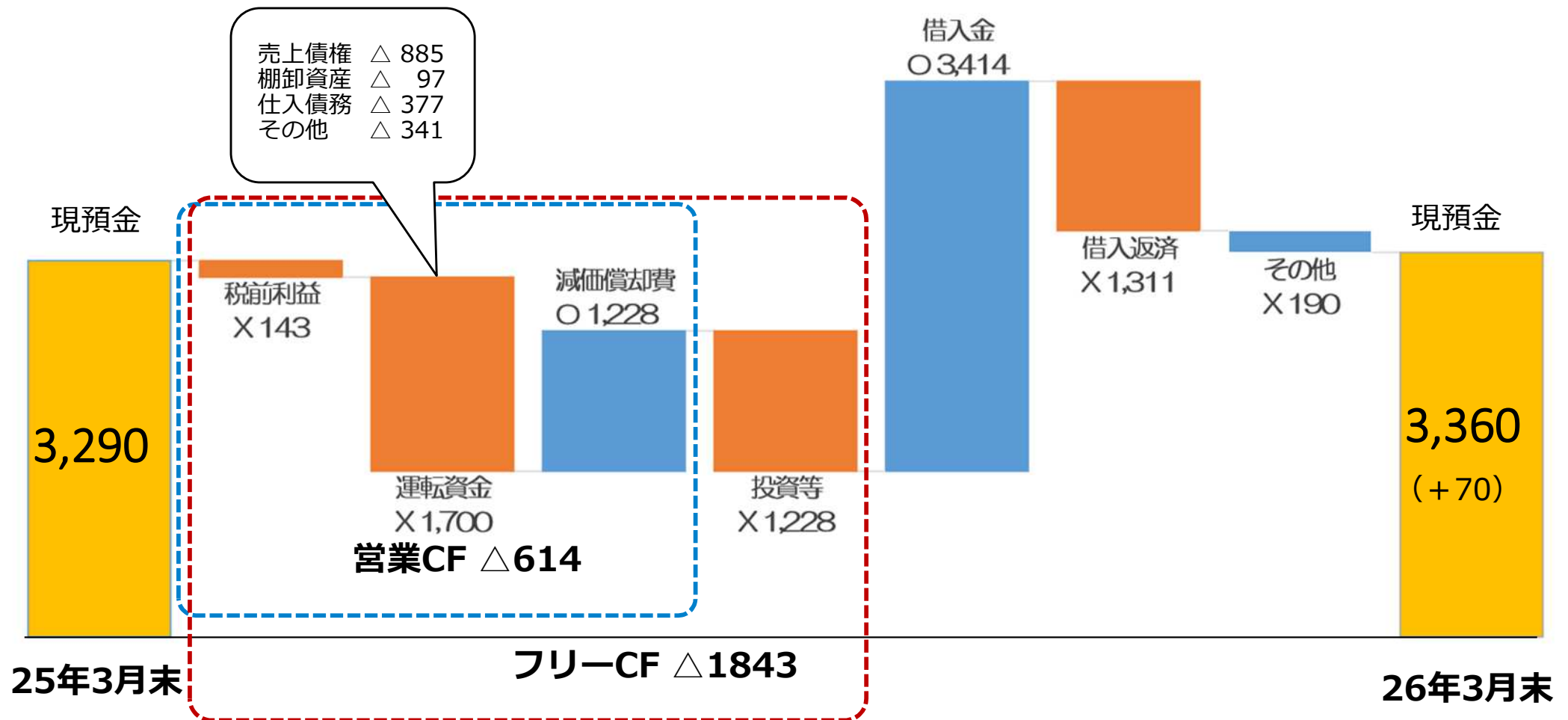
	2024年度 (2025年3月期)	2025年度 (2026年3月期)	増減
総資産 (百万円)	26,159	29,203	+ 3,043
純資産 (百万円)	11,582	11,626	+44
負債合計額 (百万円)	14,577	17,576	+ 2,999
自己資本比率	43.5%	39.2%	△4.3%
1株あたり純資産 (BPS) (円)	1,993	2,048	+55



- ◆ 総資産：前年度末比 + 3,043百万円の増加
 → 流動資産 +1,469百万円 (売掛金、原材料等の増加)
 固定資産 +1,574百万円 (有形固定資産の増加)
- ◆ 純資産：前年度末比 + 44百万円の増加
 → その他の包括利益累計額 + 446百万円
 (その他有価証券評価差額金等の増加)
- ◆ 負債合計額：前年度末比 + 2,999百万円の増加
 → 流動負債 + 1,065百万円 (短期借入金等の増加)
 固定負債 + 1,934百万円
 (長期借入金,リース債務等の増加)
- ◆ 自己資本比率：39.2% 前年度末比 △4.3pt

前年同期比 連結キャッシュフローの変動要因

(単位: 百万円)



2026年度 通期連結業績/配当予想

注：単位記載の無い項目は百万円単位	2025年度 (2026年3月期)	2026年度 (2027年3月期)	前期比増減率
売上高	19,501	25,800	+ 32.3%
営業利益	31	770	—
経常利益	11	550	—
親会社株主に帰属する当期純利益	△96	330	—
1株あたり年間配当金（予定額）	20円00銭	20円00銭	± 0円
配当性向（%）	— %	34.3%	—

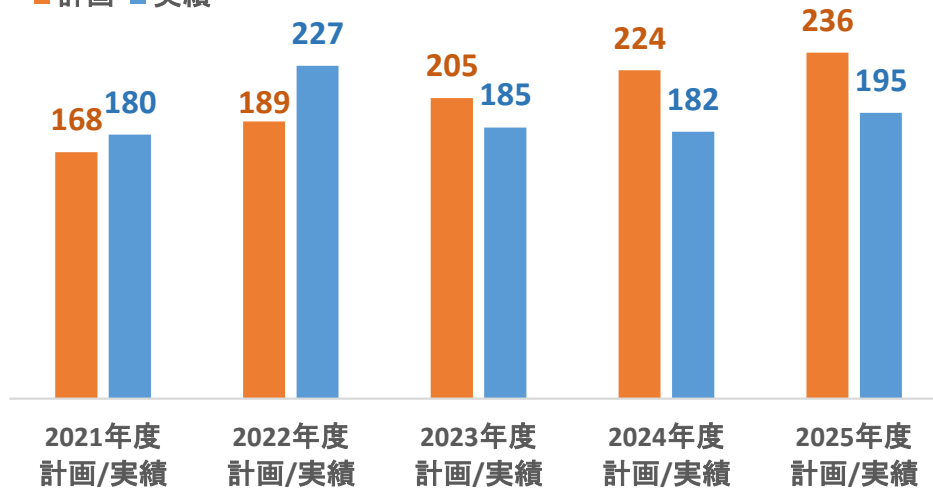
- ◆ 26年度の連結業績は売上高 25,800百万円、営業利益 770百万円、経常利益 550百万円、親会社株主に帰属する当期純利益330百万円を見込む。
- ◆ 駆動システム事業の受注が昨年末以来急回復しており、業績の好転が期待される。また、金型システム事業において新規大型プロジェクトが下期以降から業績に寄与する見込み。機工・計測システム事業も事業効率化により、堅調な収益が継続すると見込まれることから、25年度からの大幅な増収・増益を見込む。
- ◆ 1株あたり年間配当は 20円/株（中間5円/株、期末15円/株）を予定。

3.中期経営計画 Vision2030

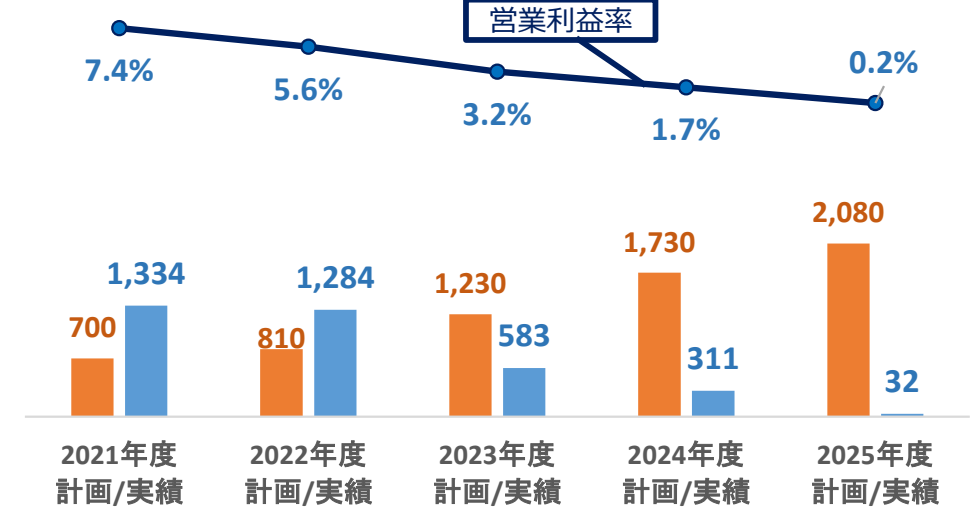
Vision2025 数値計画（連結） / 実績

売上高（億円）

■ 計画 ■ 実績



営業利益（百万円）



<成果>

- ・ **全社**：前半は駆動、後半は金型に集中投資
- ・ **駆動**：半導体製造装置以外の市場拡大に向けて、医療ロボット大手への拡販成功
- ・ **金型**：①大型の設備投資によって電動車用モーターコア/金型の生産体制を整備。②国内大手OEMのプロジェクト受注。③BKLを設立し国内量産体制整備。④eVTOL引合獲得
- ・ **機工・計測**：赤字基調であったが、工機の新機種投入や効率化により黒字転換を実現

<反省>

- ・ **全社**：駆動の悪化を金型で補いきれず全体で悪化
- ・ **駆動**：半導体製造装置の市場サイクルから脱却できず、市況低迷の影響を受ける。最先端半導体への参入できず
- ・ **金型**：①先行投資負担増える中でのEV化の後退や磁石調達問題により金型事業の損益が悪化
②最大市場の中国市場の攻略に苦戦
- ・ **機工・計測**：22年度黒字化の目標未達。市場低迷影響等で売上拡大が実現せず、黒字化は25年度に

Mission : 企業が社会に対して「なすべき事」



精密技術を通じて世界の産業の高度化をサポートする

Vision : 企業・組織・事業が目指す「あるべき姿」



精密領域

精密技術のCoE
(センターオブエクセレンス)

金型領域

モーターコアの
フロントランナー



Value : 従業員が具体的に「やるべきこと」



常に新しいものに挑戦し、
新しい価値を創造する

社会の動き



＜労働力不足＞



＜モビリティの電動化＞



＜AI・ロボット等新産業の発展＞



＜資源の不足＞



＜医療体制の逼迫＞

産業高度化への対応：自動車電動化への対応、半導体市場拡大への対応

- ・ 自動車電動化の潮流は変わらず、確実に進捗。金型製造＋プレスで着実に需要を取り込み
- ・ 半導体製造装置は受注急増。フレキシブルな生産体制の構築で需要増に対応

未来の産業への対応：e-VTOL、ヒューマノイド、光電融合など将来の産業へ対応

- ・ アモルファス、パーメンジュールのような新素材モーターコアの開発により、e-VTOLやヒューマノイドの新産業に参入
- ・ 駆動事業と機工・計測事業のシナジーを産む体制を構築。光電融合など新市場に向けた新事業・新製品を開発

環境・社会への対応：ESGへの対応を進め、よりよい環境・よりよい社会へ貢献

- ・ CO₂排出削減の取り組みに加えて、環境にやさしい製品・製造技術の開発にも注力
- ・ 少子高齢化の中で、だれもが働きやすい会社の実現を目指す

黒田精工の強み

高度な
精密技術

各産業を
リードする
お客様との
関係

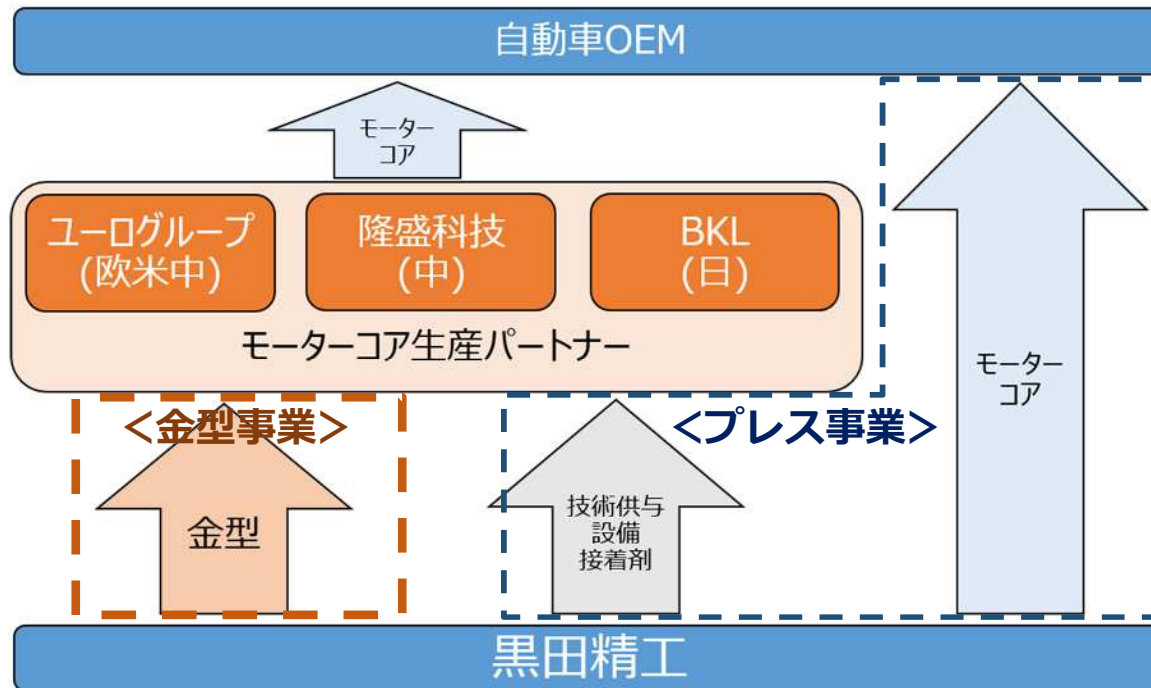
パートナー
戦略による
リソース
活用

匠の
技術をもつ
熟練社員

100年の
歴史に裏打
ちされた
信頼

成長の柱として、国内大手OEM向け新規大型PJにより中計期間に売上大幅増を実現

<金型領域ビジネスモデル>



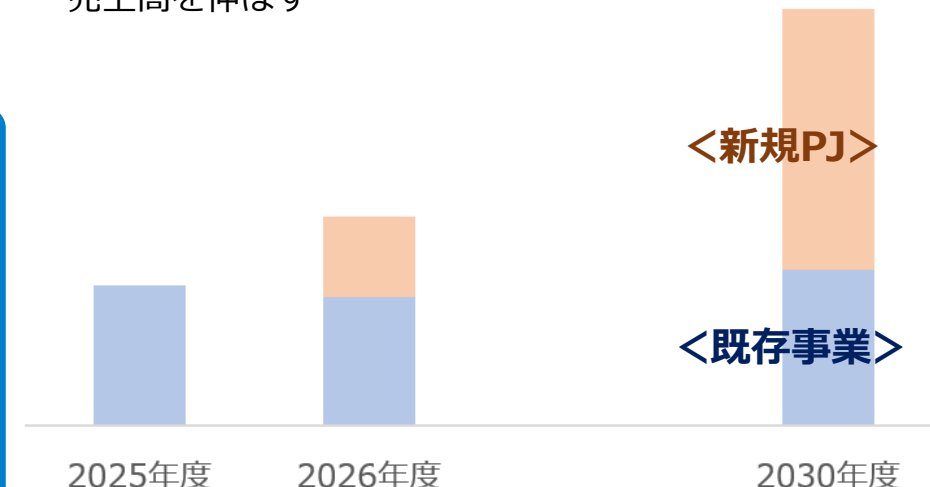
<新素材コアの特徴>



<金型領域売上イメージ>

プレス事業での新規大型PJへの対応により、大きく売上高を伸ばす

- ◆ 金型事業：EVの減速をHEVプロジェクト受注で補い電動車PJ数は増加、これに向けてモーターコア用金型の拡販を行う。世界的なスタンピングパートナーとの連携し、電動車の規模拡大に合わせて、モーターコア用金型の拡販を行う
- ◆ プレス事業：国内大手OEMからの大型受注により事業規模拡大。中計期間後半にはパーメンジュール等新素材モーターコアの開発により、ハイエンド電動車およびe-VTOLやヒューマノイドの新産業に参入

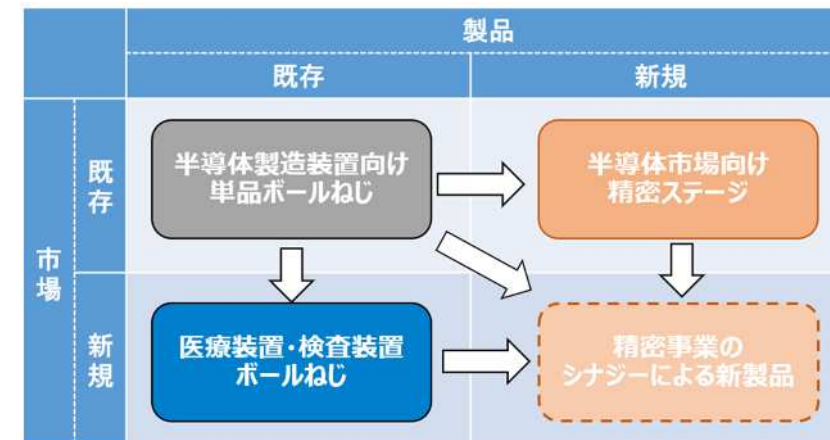


効率化を進め、精密技術を活かした新規事業による成長を図る

<精密領域ビジネスモデル>



<駆動事業の成長マトリクス>

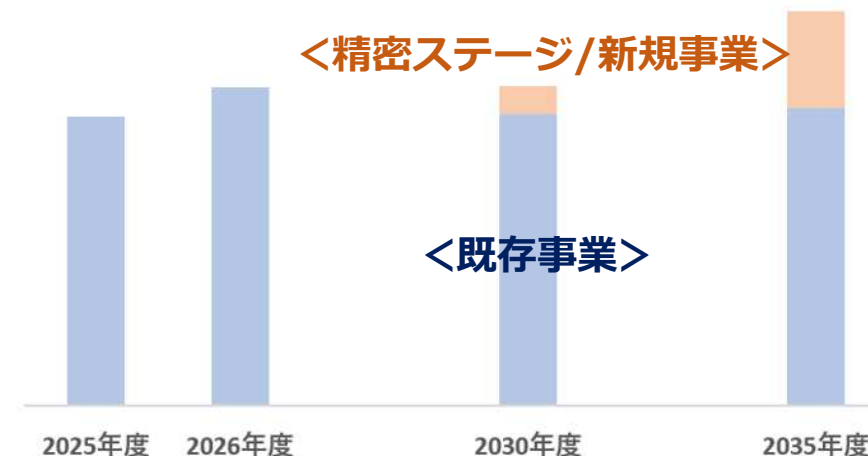


<精密領域売上イメージ>

既存事業は半導体サイクルも勘案し売上増を追求せず、効率化による利益の改善を目指す。Vision2030期間中の新規事業育成により、2030年度以降に成長を実現

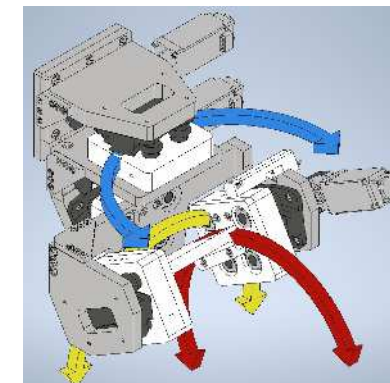
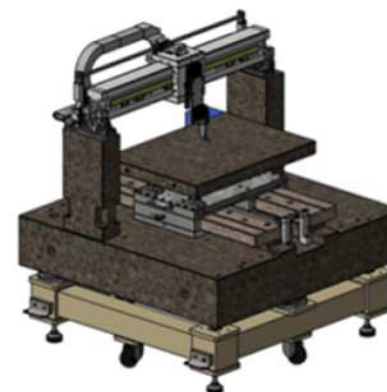
- ◆ 駆動事業：短期的には受注の急拡大に対応するも、生産能力の大幅拡大は行わず、フレキシブルな生産体制の確立を目指す。また、利益面で重荷になっているドイツ事業に関しては抜本的な構造改革を検討する
- ◆ 機工・計測事業：開発・生産の効率化により、黒字体質の定着を図り、新規事業による成長を実現する

<精密ステージ/新規事業>

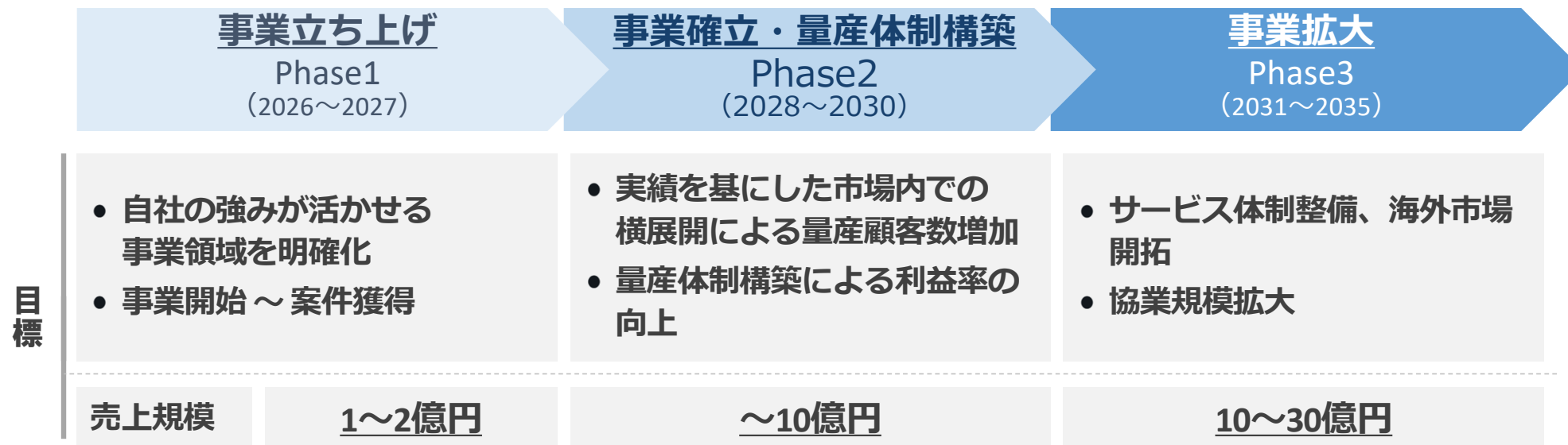


精密加工、測定技術を生かして精密ステージ事業に参入

- ◆ ターゲット市場：AI半導体、光電融合デバイス製造などにおけるプロセスの進化により要求精度の上がっている半導体製造装置/検査装置市場
- ◆ 強み：高精度研削・ラップ仕上げ等の技術に裏打ちされた精密要素部品や直線・回転運動用エアベアリング等の製造技術を保有。更に精密測定装置・工作機械等で培われた設計ノウハウや高精度組立技術による高い総合精度の提供が可能

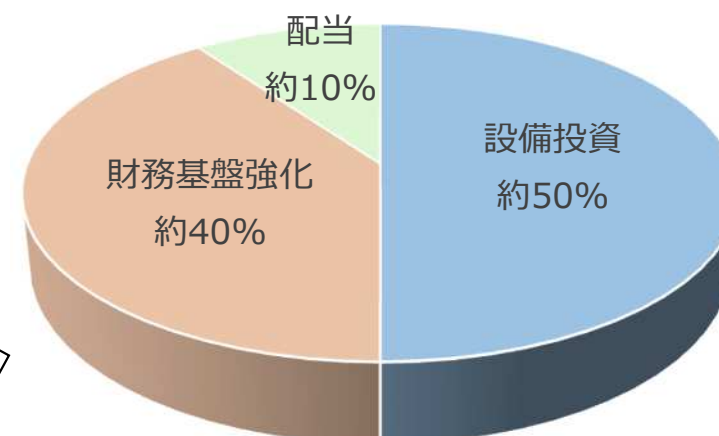
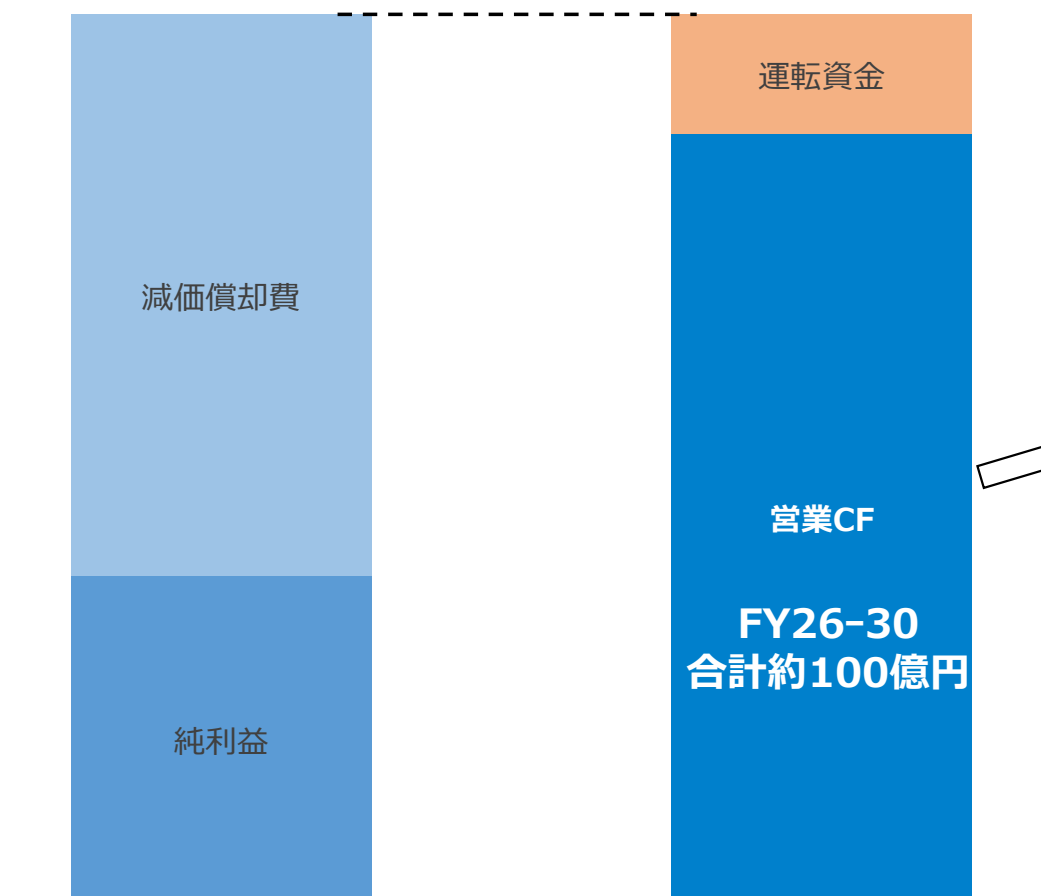


<事業ロードマップ>



キャッシュ アロケーション (FY26-30)

中計期間は財務の基盤強化を優先し、今後の投資余力を高める



中計期間中のCFのうち約50%は、設備投資に使用予定。残りのうち10%を配当原資とし、40%は24-25年の設備投資によって増加した借入の返済に使用。将来的な資金需要に備える

金型の大型投資は25年までに完了、Vision2030期間は自動化等効率化を中心に投資を実施

計画期間グループ全体で**51億円**程度の設備投資を実施 (事業環境・受注環境に応じ段階的に実施)

Vision2025期間 設備投資

合計 約**73**億円 ⇒ 約**93**億円

共通 約**17**億円 ⇒ 約**12**億円
(対計画△5億円)

精密 約**30**億円 ⇒ 約**21**億円
(対計画△9億円)

金型 約**26**億円 ⇒ 約**60**億円
(対計画+34億円)

Vision2030 設備投資計画

合計 約**51**億円

共通 約**6**億円
基幹システム更新 等

精密領域 約**29**億円
精密ステージ、小径ボールねじ設備 等

金型領域 約**16**億円
プレス装置、3D CAD、自動化設備 等

Environment 【環境】

- ・環境方針の順守、環境マネジメントの継続的な改善
- ・CO₂排出量削減目標の達成に向けたアクション
2030年 2018年対比△40%、2050年 カーボンニュートラル達成
- ・環境負荷の低減に貢献する分野での事業展開、低炭素の生産方式の導入
例) 省エネ型電動平面研削盤、高効率新素材モーターコア
エネルギー効率に優れたGlue FASTEC®生産方式

Society 【社会】

- ・品質、健康、安全第一への継続的取り組み
- ・国籍、年齢、性別等によらない多様性を尊重した採用方針と人事制度の拡充
- ・育児、介護、治療と仕事の両立ができる職場環境の整備
- ・プラチナくるみん、えるぼし認定取得に向けての制度整備と啓蒙
- ・DXを活用した業務効率化の推進

Governance 【ガバナンス】

- ・グループ全社でのコンプライアンス、内部統制制度の徹底
- ・DX化に対応した情報セキュリティ管理の強化
- ・「パートナーシップ構築宣言」に基づき、サプライチェーンの取引先や価値創造を図る事業者の皆様との連携・共存共栄を進める

CO₂削減の取り組み

- ・ Vision2025の削減計画を上回る進捗。引き続き削減をすすめ、2050年度のカーボンニュートラルを目指す



- ・ 工場への太陽光発電導入を積極的に推進。かずさアカデミア工場、富津工場、長野工場の導入に続いて、26年度は長野工場での増設とマレーシアKPM社での設置を計画。25年度は9.8%の電力を太陽光で賄っている

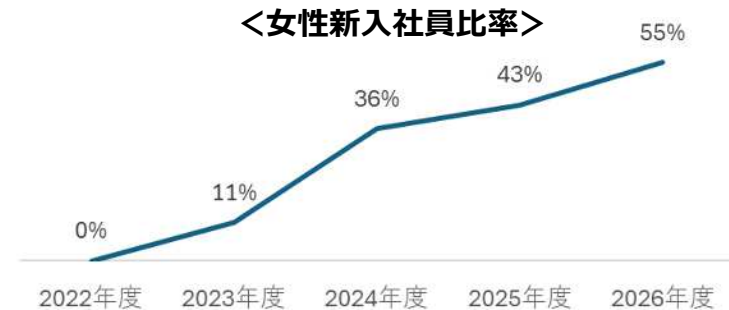


＜かずさアカデミア工場＞

- ・ 千葉の3工場では、25年度から国産木質によるバイオマス電力も導入開始(購入電力の30%)

多様性尊重と人財育成の取り組み

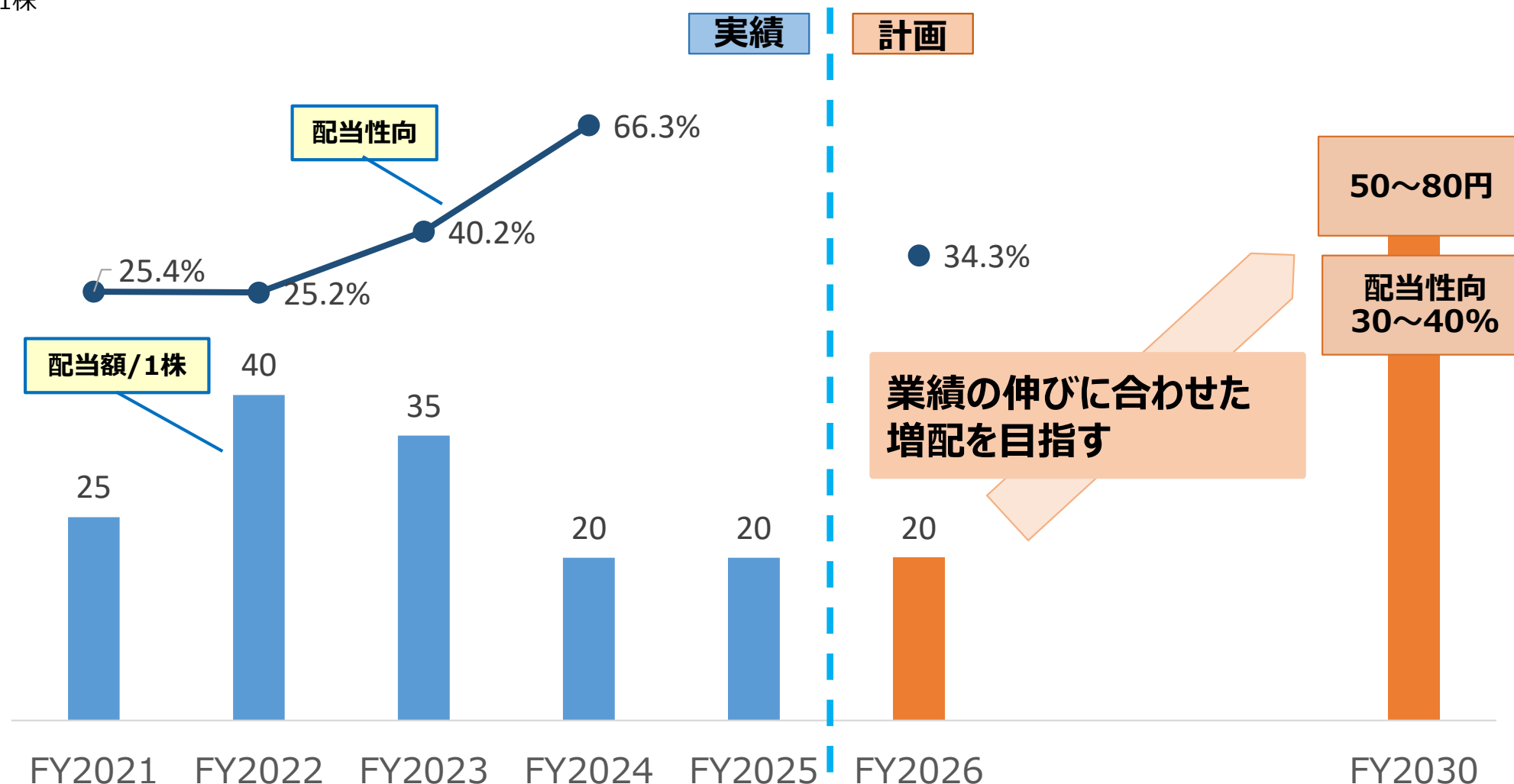
- ・ 人財多様化の観点から女性の採用に積極的に取り組んでおり、新入社員に占める女性の比率が26年度には50%以上に上昇。
女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定や次世代育成支援対策基本法に基づく「プラチナくるみん」認定の取得などを通して更なる社内環境整備を図る



- ・ 新しいスキルの習得を奨励するための充実した資格手当制度や奨学金返還支援制度を導入し、多様な社員が活躍し、成長できる職場環境の実現を図る
⇒制度導入後、公的資格取得者3.3倍に増加

Vision2025期間は、利益額の減少時には配当性向のルールを超えて一定の配当を維持。今中計期間も同様の方針は維持しつつ、配当性向30～40%を目標に、利益の拡大による増額をめざします

円/1株



30年度には370～390億の売上規模でROE 7～8%を実現する

	25年度実績	30年度目標	(参考) Vision2025
売上高	195億円	370～390億円	168～230億円
営業利益率	0.2%	4～5%	4%超～8%
ROE	–	7～8%	5%超～10%
自己資本比率	39.8%	45%以上	45%以上
配当性向	–	30～40%	25～35%

- 当資料は、投資家の皆さまに黒田精工株式会社への理解を深めて頂く事を目的として、経営や財務に関する情報を提供するものです。
- 当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。
- 当資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠することなく、ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

黒田精工株式会社 経営企画部 IR担当

TEL：044-555-3800

ホームページ： <https://kurodaprecision.com/jp/>